

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2874003805		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	姫路ケアセンター そよ風		
所在地	兵庫県姫路市神田町4丁目15番地 (電話) 079 - 299 - 6700		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年11月20日

【情報提供票より】(平成21年9月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	約35,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(9月26日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4	要介護2	6		
要介護3	6	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	1		
年齢	平均	83.3 歳	最低	68 歳	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新日鉄広畑病院、相仁クリニック(東雲町)
---------	----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人理念とは別に職員で考えた「やさしい笑顔は介護の原点」を理念に掲げ利用者、家族、職員のコミュニケーションを大切に、来て良かったと思っただけのようなケアを目指している。地域との交流を深めるべく連携の大切さを実感し、今後に向け取り組みを図っている。利用者一人ひとりの自由な暮らしが支えられて、穏やかに落ち着いて過ごされており、利用者、職員が和やかに会話を楽しんでいる光景が印象的なホームである。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回評価を受け、できることから改善に取り組み、入浴時間を限定せず本人の意向や体調に合わせた入浴が楽しめるよう支援している。評価を自分達の日ごろのケアの振り返りと捉え積極的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	今回の自己評価は新しい職員が多い中、意識してケアに取り組める良い機会と考え、スタッフで分担して自己評価を行い、管理者がまとめている。職員の気付きとして地域とのかかわりが難しく、行事以外に日ごろからの付き合いが大切と考え、散歩や外出の支援を検討している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	自治会、婦人会、社会福祉協議会、地域包括支援センターの職員、家族の代表者をメンバーに4ヶ月に1回のペースで状況報告、地域の情報、介護の相談等の内容で意見交換がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	個別には月に1回、自筆の手紙や職員の手紙で状況報告を行い、写真と一緒に送付している。センター内に意見箱を設置したり、家族会を開き、広く家族からの意見や要望を吸い上げて対応を検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	地域の行事や学校行事の参加により地域住民や子供達との交流を図り、ボランティアやトライやるウィークの受け入れも行っている。また、センターの広報誌や行事案内を地域で回覧していただくなどの積極的な交流を行っている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に、さらに職員みんなが大切にしたい内容を考えて、「優しい笑顔は介護の原点」というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム独自の理念を掲げて、朝礼の時に唱和している。また理念を具体化するためにコミュニケーションの大切さや和やかな空間づくり等実践的に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学校の行事に出向いていき、中学生のトライやるウィークの受け入れを行う交流を持つ機会があり、利用者も楽しみにされている。また施設内の行事案内を自治会や婦人会等に案内して地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価を受けるにあたり、全員の介護スタッフが各項目について記入しユニットリーダーがまとめ、管理者と相談して自己評価表を作成している。昨年の改善項目についても積極的な取り組みができた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では自治会長、社会福祉協議会支部長、婦人会長等地域の代表者と利用者の家族の代表が数名交代で参加され、地域での情報や地域で困っている介護の相談など意見交流ができています。</p>		<p>運営推進会議は現在4ヶ月に1回の開催であるが、メンバーの工夫を行いながら2ヶ月に1回の開催ができるように期待したい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>保険者から案内される研修会に参加してサービスの質の向上につなげている。 保険者から求められる待機情報等の報告を定期的に行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月1回家族への報告を行っている。報告内容は、金銭管理の報告以外に利用者の近況を記載したお便りに写真をつけて利用者が日々、過ごされている様子を伝えて、家族が安心していただけるように配慮している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年3回、グループホーム内でのイベントの時に合わせて家族会を開いて意見を聞く機会を設けている。家族会の報告については全員の家族に送付している。意見箱を設置しているが投函はなく、直接の相談や意見を聞くことが多い。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職を必要最小限に抑える事が出来るように雇用体制の整備が見られた。 離職等の発生についての説明は利用者が混乱しないような対応が検討されている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、センター内での研修会を位置づけて疾患の勉強や感染症対策などを実践している。外部研修についても受講した者がスタッフに伝達している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市グループホーム連絡会の活動に参加している。そこではグループディスカッションがあり、学ぶべきことが多い。法人内でも近畿県内にグループホームが17ヶ所あり、サービスの質の向上につながる交流を持つ機会がある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所申込みにあたり、自宅訪問や複数回の面接を行い、家族や利用者が安心できるよう説明や関係づくりに努めている。入院中の利用者については病院訪問を行い、医療関係スタッフからの情報も得る努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切にしている。日々の会話の中で体験談等教わる事が多い。特に調理については、長年の経験から学ぶ事が多く、職員自身が支えられていると感じている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎月1回、ユニット会議を開催している。ここでは、ケア計画に必要な情報交換の場となっている。日常的な内容については、連絡ノートで利用者の意向をスタッフ全員が共有できる仕組みがある。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月1回、ユニット会議を開催し、利用者に係るスタッフが利用者の一人ひとりの細かいニーズを基にした課題や意見を出し合って介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の身体的変化やニーズの変化に対応出来るよう話し合っている。定期的な介護計画の見直しも行っている。個別計画についてはより具体的な内容となっている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設事業所であるデイサービスの音楽療法や体操などで交流がある。必要な医療機関への受診を行うための支援を行っている。家族が利用者の居室に泊まれる柔軟な環境にある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者のなじみのかかりつけ医に受診できるよう家族と連携をとりながら、受診の支援も行っている。必要時には主治医に相談できる関係もある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルケアの研修会に参加し、事業所内でも学習会を開催している。実践的にターミナルの利用者を受け入れて、利用者家族から信頼を受け、感謝されている実績がある。</p>		<p>実践的にターミナルの利用者を受け入れ、家族からの信頼や評価も高い。さらに事業所としての方針やマニュアル等作成することでスタッフ一人ひとりの自信につながることを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取扱いに関する同意書を交わしている。また日々の業務の中でスタッフが利用者のプライバシーを大切にされた対応や言葉遣いに気を配られている様子が確認できた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりに合った生活スタイルを大切にしている。そのため起床時間や食事の場所などその方に合わせている。利用者が穏やかな笑顔で過ごされていることが確認できた。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは利用者と職員が一緒に行っている。食事中は職員と利用者が会話を楽しみながら一緒に食べている様子が確認できた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の体調や意向に合わせて実施しているため時間を決めていない。個浴でお湯も一人ひとり変えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが大切にしていることを職員も分かち合える事が大切であると認識している。お墓参りや家族宅に外泊が出来るような働きかけをしている。利用者の役割として洗濯たみや花の水遣り等、日課にしていることが多くある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回、車での外出があり、外食なども楽しみにしていることを利用者から聞く。日々の中で買い物や散歩などに出かけるようにしている。		個別のニーズに合わせてもう少し外出の機会が増えることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出て直ぐに交通量の多い道路に面しているため、電子ロックがされている。センター内は利用者が自由に行ききできるようになっている。入所時には家族に説明して同意が得られている。		結果施錠するとしても、鍵をかける事の弊害の理解が職員全員に周知徹底ができるように継続的に学習会の開催を期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>利用者の参加する消防訓練を自主的に行っている。法人として災害マニュアル作成できているものの、特に夜間については不安は大きい。</p>		<p>法人としてのマニュアルは整備されているが、さらに事業所としての職員が行動できる具体的なマニュアル整備の検討と地域との協力関係を期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取にとどまらず、主治医の意見も聞きながら個別の水分摂取表に記録している。特に水分摂取については、個別摂取しやすい工夫がある。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間が居室の真ん中にあり、大きな窓があるため穏やかな日差しが入り、全体的に明るい雰囲気である。季節の花や植木があり、壁には楽しい思い出の写真が飾られている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が大切にしている化粧台やタンス、また使い慣れたベット等の家具を持ち込まれ、仏壇など個別の居室空間があり、利用者の居心地のよさに配慮されていることが窺えた。</p>		

 は、重点項目。